

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



今や日本一のホテルの里、平安時代から交通の要衝
として栄えた旧北房町下砦部に建つ砦部分教会

立教180年
6月号

縦の伝道講習会開催

5月21日 祭典講話にかえて

少年会笠岡団(武内正美団長)は、5月21日、大教会月次祭後に「縦の伝道講習会」を開催しました。講師は少年会本部委員・中野大教会長夫人深谷英美先生。

深谷先生は、「教祖のひながたこそ、この道歩む全てが頼りとするただ一つの尊い手本である」と、教祖伝逸話篇の中から、こどもの育成、丹誠の大切さをお伝え下さいました。また、先生は未信者でしたが、小学4年生の時、



お話し下さる深谷先生

友だちに誘われて、こどもおちばがえりに参加し、その後、病弱な母親の元へ、教会の方がおたすけに来て下さるようになり家族が信仰の道に入ったことなど、ご自身の体験を通して、お道のすばらしさをお話し下さいました。まさに「一言のにいがけが人の運命を変える」とお示しいただくところだと感じました。

「いよいよこどもおちばがえりの旬を迎えます。

少年会活動の中心であり、頂点であるこどもおちばがえり!!

今年もご存命の教祖にお喜びいただけるよう、精一杯、帰参の努力をさせていただきます、一人でも多くの子ども達と共におちばに帰らせていただきますように。

(少年会委員 丸山哲子)

ひのきしん団参 実施

青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、5月28日、恒例のひのきしん団参を笠岡詰所で実施。青年会員をはじめ、家族、教会ぐるみの参加者や、親里管



毛布の襟外しひのきしんとベランダ磨き

内学生など合わせて40人が、ひのきしんに汗を流した。

女性や少年会員は、詰所にある毛布の襟外しを行い、大半を外した。また、青年会員らは、長いベランダを、デッキブラシで丁寧に磨き上げ、殆どのベランダを綺麗にする事ができた。

参加者は、夏に向けて、親子・夫婦仲良く、ひのきしんに勤しんだ。

わかぎの集い開催

少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)は、5月28日(日)わかぎの集いを開催し、少年会員10人、育成会員8人が参加した。講堂で座りつとめの練習に励み、その後、こどもおちばがえりの際、詰所に設置する、看板の下絵に取り組みました。趣向を凝らしての試みで、モザイク画と言い、色々な写真を撮り、それらを組み合わせ一つの画像を表現するというものです。当日は、その下地になる写真撮りに挑戦しました。



ピースサイン



楽しい食事

先ず、お互いの顔を映し合い、木や花、或いは、建物など、あらゆる物体をカメラに収めました。みんなが撮った写真は、おちばでのお楽しみという事で終了しました。

午後からは、世界に一つだけしかないという、手作り版人生ゲームを楽しみました。誕生から結婚、人生の節目、冠婚葬祭など、ハラハラドキドキの瞬間を味わい、今後の人生経験に大いに役立つものと思います。その後、おやつを食べ、二時半頃解散しました。

何事にも多感な年ごろの中学生、お道の行事を通して、少しでも育ってほしいと思います。

(少年会委員 藤井保人)



タンザニア初の神実様お祀りとおつとめ

最初の年は本当にどんな国なのだろうか、私達が訪問出来るような所なのだろうかという不安の中、おやさまにお凭れすることの心定めで始まったこの訪問もこの度で9年目を迎えた。

毎年行かせて頂いても現地での生活はいつも違う様相が見られる。今年は新たな展開が見られた。

今年に入ってから昨年修養科を修了

**新しい展開が
現れてきた**

**第9回目のタンザニア
おたすけ訪問**

海外部



村の中でのおさづけ

したアルーシャ市のエディナ・キヴヨさんのお宅に神様をお祀りしてはどうかと本人とのメールのやりとりを繰り返してきてきた。3月になって「お祀りさせて頂き、お世話させて頂く」という返事を頂いたのでそれから準備にかかったのだが、幾つかの問題点が浮かんできた。本部海外部に報告すると、コンゴもケニアも日本から持参したお社は殆どシロアりに食べられていてという現状を耳にしたので、準備したお社と、それを納める木の箱(甲井前会長さんに作って頂く)等を全て防虫塗料を数度塗って用意した。もう一点は、神実様やお社を海外に持ち込むとき



アマニ孤児院のみんなと撮影

に、入管所で説明しないといけないので、その英語説明文をヨーロッパのリカ課で作成して頂いた。毎年入国時に鞆を開けられ孤児支援の物資一杯の前に質問をうけて30分ほどを要するのだが、今年は全く開封も質問もなく、さすが神実様のお働きと感激した。

さて、タンザニア入りした次の日、車で14時間かけてアルーシャ市に到着した。その次の本部月次祭当日にエディナ宅へ神実様をお祀りし、おつとめと前半下りを用木家庭と共につとめた。その後、おやさまのひながたの初めはおやさまの御心を理解してください人もなかったが、おやさまは親神様

の思召のまにまに世界だすけに日々を歩まれたことをお話しさせて頂いた。これからこの家を元におたすけの輪が広がっていくことを祈るとともに、一緒に歩いていきたい。

さておたすけ活動も、今までの8年間は殆どの日程が現地用木にお任せしたものでしたが、今年は自分たちの足で知り合いになった人達と歩くおたすけへと新たな展開になってきた。

9日間で配布したパンフレットは180枚、おさづけの回数67回、ごきさん85袋、訪れた孤児院や小学校に寄付金やサッカーボールなど。両足のない人への車いすなどを持参して寄贈させて頂いた。

常日頃の支援や4月に行われた支援バザーなどへの多くの方々のお心寄せ、御尽力の賜物です。心よりお礼申し上げます。有難うございました。

(海外部長 上原 志郎)

初めての海外 タンザニア訪問

笠岡大教会 上原 孝

この度上原志郎先生と千枝子さんと

芳井分教会の佐藤和代さんと私の4名でタンザニアおたすけ訪問に行かせて頂きました。

おたすけ訪問は今年で9回目となりますが、私は初めて参加させて頂きました。そして今回、タンザニア初で神実様を用木のエディナさん宅にお祀りしました。このことは、大変有難いことです。

タンザニアは、私のイメージとは違つてあまり不慣れな思いはしてなさそうに見えたが、2日目ですぐにその状況が分かりました。そう見えたのはダルエスサラームや大きな都市の話であつて、一度街から出れば電機や水道もないような所に、土の壁に窓のない吹き抜けの家が並んでいる村がいくつもあつたり、何十キロメートルも何も



村の人の案内でおたすけに歩く

ない道で水や食料を運ぶ人がいたり貧困が目立つ所があつた。そのような場所におたすけに行きたかつたが今回はそういう機会がなかつた。タンザニア人は、病氣を持つている人が多く、この10日間で、67回のおさづけをさせて貰つた。腰が

痛いとか足が痛いなど、日常的な痛みにさせて貰うことが多かつたが、糖尿病やマラリアやエイズといった病氣にさせて貰う事も多かつた。おたすけに回つて行く途中で、葬儀に立ち会うことになり、18歳の女性が4ヶ月前にマラリアにかかり、闘病の末亡くなつたという。私たちに何かできることはないかと思つたが、天理教は死んだ人ま

では生き返らせることは出来ないの
で、ただただ見送るだけで
辛く、高校のクラスメイト
達は笑っている顔も見せて
いたが、とても悲しそうで
した。私たちは何が出来る
だろうととても考えさせら
れる出来事だつた。
今回は、他に孤児院を回つ
て寄付したり子供たちと一



路上でのおさづけ



ヤチマ孤児院で
子供達と遊ぶ

緒に遊んだりしてきた。この10日間いろいろな人と関わってきましたが、皆さんとてもやさしく、明るくい人たちでした。この中で一人でも多くお道に繋がつていってほしいと思います。このおたすけ訪問中、誰もお腹を下すことなく、病氣になることなく無事通れたことを有難く思い、これからの人生に生かしていきたいです。

第九回タンザニアおたすけ訪問日程

5月23日	14:00	会長さんに挨拶の後、お願いづとめ・理立ての御供えの後四人で出発			
	23:30	関西空港出発(10時間のフライト+乗り換え(5時間)+6時間のフライト)	29日	6:30	イマ宅へ宿泊。男性軍ホテルへナイマとおつとめ、ナイマへおさづけ。ヤチマ孤児院へ到着。干枝子を全員で空港へ送る。帰りに買い物。換金など。
24日	14:30	タンザニア到着、スティーブ達の迎え。	30日	7:00	おつとめ、朝食。スティーブが志郎の腕におさづけ
	16:00	軍の病院にて用木マコタの父・エドガーマコタに会い、車いすを寄贈。父におたすけ(4人)病室の人へもおさづけを			志郎・スティーブはキルワ宅へ。N G Oの相談。和代・孝は歩いてヤチマ孤児院へ
		sharonホテルに到着。荷物を置いてマコタ宅に向かう。夕食を頂く。			志郎キルワグループの役員におさづけ。二人は徒歩途中で出会った身上者におさづけ
25日	7:30	朝づとめ。前日の反省。今日の予定確認。朝食		14:00	孤児院前で待ち合わせ。3人で昼食。後孤児院で子供たちの世話取り。
	10:00	アルーシャに向けて出発。運転手チユビさん。	31日	15:30	歩いてホテルまで2時間。
	11:45	途中、イメルダ宅にて子供のアビエルちゃんにおさづけ		5:10	おつとめ。朝食
	23:40	エディナ宅に到着。食事。女性たちはお家で宿泊。男性陣はホテルへ。		9:00	デニス宅へ徒歩で向かう。(2時間)
26日	12:00	神実様鎮座祭。おつとめ、半下り。お話し。		10:45	到着。語らいの後、おさづけを。その後アナ夫人の孫グラディーが勧めた貧困層へのおたすけをデニスが同意し、案内してくれる。
	13:30	修了。家族へおさづけの取り次ぎ。その後カレー祭り			危険な貧困層の村でお願いのよろづよ八首のおてふり、その後身上者が集まっておさづけへ(六名)
	15:20	町へ買い物(エディナが日本でお世話になった人達へのおみやげ)へ		17:00	マユンガさんと外で夕食
	16:15	近所のユンゴセンギョー小学校(2100人の生徒)へサッカーボールを寄贈。ピーター教頭	6月1日	0:20	ホテルへ到着
		買い物、軽食			おつとめ、朝食。スティーブが志郎の腕におさづけ
	21:00	夕食		11:00	デニス宅へ向かう。しばし語らいの後、おさづけの取り次ぎ。
27日	8:30	朝食後、おつとめ(10人の参拝者)。後5人におさづけ。エディナもおさづけを。マサイ村の孤児院へ寄付。サッカーボールを寄贈			デニスの紹介で新たにおたすけに向かうが途中知人の葬儀に参加する。
		ダルエスサラームに向けて出発		17:00	マコタ宅でEDGARさんに3度目のおさづけ。夕食。マコタが孝の頭痛におたすけ
	10:30	昼食		19:40	ダラス宅到着。夫妻が留守の為、子供たちと話をしながらパンフレットとおみやげを残して帰る。
28日	1:00	シャロンホテルに到着		21:00	帰宅
	8:30	おつとめ、朝食	2日	7:30	おつとめ、朝食
		マコタが来るまで屋上でタンザニアのたすかりを祈念してよろづよと後半下り(スティーブと共に)		8:45	デニスが訪問。共に歩いて親戚のローズ宅に向かう。
	12:00	マコタの父の病院へ二回目のおさづけに向かう。後にスティーブにおさづけ			ローズさんにおさづけ。その後、異なる親族を紹介され、マヘンゲさんにおさづけ。その後急いでホテルへ戻る。
		Zinga村へ向かい、Amani孤児院へ到着。お道の紹介。サッカーボールを寄贈。寄付。身上の子供たちへおさづけ(6人)		12:30	マコタたちが迎えに来て、空港へ向かう
	16:00	マコタの工場を見学		16:45	空港出発ードバイー関空
	18:40	ナイマ宅へ到着。ナイマの父と話し合い。女性軍、ナ	3日	23:10	大教会到着、参拝

こころの詩

▼古都鎌倉にて

田林美智子さん(東悠分教会)

紫陽花に誘われ古都は傘の花
大佛やみどりの雨に濡れて座す
休日、雨の中、古刹あじさい寺は、
それはみごとな色とりどりの傘のう
ごめき、思わず足を止めてながめま
した。

信者宅は大佛さ
んのすぐそばで緑
の木々が雨にぬれ
てそれは美しく静
かなたゝずまいで
した。



笠岡の教友が選ばれ掲載されていまし
たので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽5月21日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

詩立ちを隠すこころにキユキユと

葱切る音をすこし高くし

▽6月4日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

朝詣懸かり藤にも誘はれて

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の 親心一杯の御守護により結構に恙なく生活くらしさせて頂いております 特に今は 目に青葉 山ホトトギス初鰹 と俳句にも詠まれ 日中は少し暑く夏を感じる事もあります 清々しく晴れやかな素晴らしい季節をお与え頂いております 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日頃かしまのかりもの喜び感謝の心一杯に朝夕に御礼申し上げると共に 世界一列を助けたいとの親心にお応えすべく 御恩報じの心で世界たすけのご用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は此の教会の五月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせていただきます 御前には今日の日を待ちわびて寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にも御勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は恒例の直轄巡教をさせて頂きました 今年の心定め完遂を目指し共々に心新たに教祖ひながたを辿る事を誓い合う事が出来ました事を御礼申し上げます 又本日は縦の伝道講習会を開催させて頂きます 道の後継者育成を念頭に夏の子供おぢばがえりに一人でも多くの子供を連れ帰り 真実の親心に触れて貰って 陽気ぐらし建設のよふぼくになるよう丹精していく所存でございます

更には又情報過多の社会にあつて真実を失いかけている子供達に 助け合いこそが人としての真実と伝えるべく 各部・掛・会 挙げて育成を念頭に活動を進めさせて頂く所存です

何卒親神様には 時代の変化に惑わされる事無く陽気ぐらし建設のよふぼくとの自覚を持つてたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由のご守護を賜り 助かりたいから助けたいの心へと変わって 人皆助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

|| 辞令 ||

立教180年5月21日付

◎ 登用

雅楽奉仕人 三代 幸徳

|| 人事 ||

立教180年3月21日付

(雅鶯会・各会以外)

会長室

室長

室員

上原明勇

上原繁道

吉岡 壽

佐藤道孝

上原澄雄

岡崎真一

上原志郎

今川昌彦

上原喜三

岡本久善

上原繁道

吉岡 壽

佐藤道孝

中村 剛

常 詰

婦人会

教養掛

常任委員	支部長	掛員	副主任	主任	上原	友井	時宗	香取	村川	本多	吉岡	
田中	岡崎	横山	三島	門脇	岡崎	武内	上原	今川	上原	田林	山野	吉岡
中村	崎和	山小	島照	脇加	崎豊	内正	原順	川佐	原智	久実	野弘	岡誠
つか	理美	智榮	美津	津子	子美	子美	子美	智子	智子	嗣嗣	実郎	誠一
かさ	恵美	美榮	美津	津子	子美	子美	子美	智子	智子	嗣嗣	実郎	誠一

少年会

青年会

委員	副委員長	委員長	高信	岡田	河田	田中	余村	三代	三藤	瀬川	北政	重理	三嶋	枝廣	高木	中本	森本	森直	中村	上原	上原	高田	岡崎	杉原	中村	上原	上原	山野		
也	明	也	郎	元	徳	喜	久	治	昭	寛	毅	彦	彦	彦	善	始	三	弘	喜	朗	史	次	勇	な	つ					

学生担当委員会

委員	副委員長	副委員長	委員長	岡崎	佐藤	豊田	上原	山野	山田	丸山	瀬藤	藤本	佐藤	上原	中村	高橋	雑賀	猪原	吉岡	三嶋	掛谷	藤井	谷内	岡崎	門脇	浅野	森本	吉岡	武内	
喜	孝	哉	次	実	嗣	子	幸	美	代	恵	史	行	生	介	彦	教	和	人	自	喜	津	教	善	郎	美					

機構と分掌

立教180年3月21日付

会長室

1. 本部よりの巡教参拝の受入に関する事
2. 企画運営に関する事
3. 事情お運びの世話取りに関する事
4. 巡教及び日程に関する事
5. 部属教会の鎮座に関する事
6. 諸会議の招集、運営に関する事
7. 会長に関する諸祭の祭文祭詞作

北川	武内	掛谷	杉原	上原	香取	下田	仙田	本多	藤本	貞清	竹本
茂	まさ	喜代	善朗	喜三	雅人	誠輝	公男	正悟	芳久	知実	和道
久	み	子	朗	三	人	輝	男	悟	久	実	道

成に関する事

8. 会長に関する文書の整理、保管に関する事

9. その他会長補佐に関する事
10. 会長宅並びに客殿に関する事

常 詰

1. 常時大教会に詰める事

神 事 部

1. おつとめ、祭儀に関する事
2. 神殿奉仕に関する事
3. 神実様、御供に関する事
4. 別席、をびや、おまもりに関する事
5. 霊壘に関する事
6. 大教会及び部属教会の冠婚葬祭、年祭に関する事
7. お供物品の取扱いに関する事
8. 日報作成の事

庶 務 部

1. 教会事情の諸願書に関する事
2. 布教所設置その他布教所の諸願書に関する事
3. 個人事情願(修養科、講習、登録、扶育等の諸願書)に関する事
4. 諸統計に関する事
5. 渉外事務に関する事
6. 他の部、掛に属さない往復文書に関する事
7. 受、発信簿作成の事
8. 調査、名簿管理に関する事

世話取り

海 外 部

1. 海外伝道に関する事
2. 海外布教所、よふぼく信者の育成に関する事
3. 海外巡教に関する事
4. 日本在留の外国人布教伝道に関する事
5. 外国人参拝者の世話取りに関する事
6. 文書並びにその他海外伝道に関する事

信 者 部

1. 食堂・布団・各部屋の清掃等、信者受け入れに関する事
2. 客殿・会長宅等、接待に関する事

育 成 掛

1. 教会長、教人、よふぼく、信者の育成に関する事
2. 教人資格講習、教会長資格検定講習、任命講習の修了講習会に関する事
3. よふぼく勉強会及び月次祭当日のおたすけ
4. 部内・布教所へのおたすけ及びおたすけ相談

布 教 部

1. 教義の宣布、布教昂揚に関する事
2. 部属教会育成に関する事
3. 教会長、教人、よふぼく、信者育成に関する事
4. 各種講習会、大会、研修会、対外ひのきしん、路傍講演に関する事
5. 本部、詰所関係のひのきしんに関する事
6. 文書並びにその他国内布教に関する事
7. 本部育成部主催の各種講習会の

史 料 部

1. 史料の蒐集、保管、編纂、提示、展観に関する事
2. 本部史料集成部との連絡に関する事

管 理 部

1. 建造物、施設、境内地及び備品の管理営繕に関する事
2. 清掃衛生に関する事
3. 大教会ひのきしんに関する事
4. 墓地整備に関する事
5. 教旗掲揚、献灯に関する事
6. 車両の管理に関する事

詰 所 掛

1. 詰所管理運営に関する事
2. 信者宿泊に関する事
3. 修養科、講習の手続き並びに別席、をびや、おまもりに関する事
4. 部内教会事情願書の取次に関する事
5. おちば在住の教人、よふぼく信者、学生生徒育成監督に関する事

会 計 部

1. 会計並びにお供物品に関する事
2. 食堂及び賄に関する事
3. つなぎ袋に関する事
4. 各会の会計監査を行う

こと

教養掛

1. 修養科生及び検定講習生の教養並びに生活指導に関すること
2. 修養科の入学前講習会に関すること
3. 教養掛員会議運営に関すること

かさおか編集掛

1. かさおか編集、配布に関すること

◎教人資格講習会(中期)

立教180年6月5日終講
 稲倉 林 岡 君 江

※部内名称録の訂正

- ・ 5頁 東悠分教会 電話番号の変更
 042-705-8176 → 042-706-8397
 (FAX 同番号)
- ・ 6頁 備中分教会 電話番号の変更
 0865-66-2018 → 080-2935-8919
 (FAX なし)



「かさおか」の表紙に当教会の写真を載せる月が近づいてきた。試しに写真を撮ってみる。残念ながらお向かいに三軒の家が教会に隣接して建っていて教会の全景が撮れない。結局教会の看板が見える位置から玄関を撮ることになった。写真のできあがりを見ると看板が実に黒く煤けている。教会設立以来62年の年月を重ねている。汚れるのも当然だな。〃名は体を現す〃というか、〃看板倒れ〃とかあまり良い言葉はないが教会の実情を現しているのか? しかし〃看板に偽り有り〃とも言おう。偽りなしとも言おう。どちらにしてもいいことはない。それで看板を書き換えることにした。看板を外して水洗い……、なかなか落ちない。サンドペーパーで磨く。木が明るくなった! いやいよ大筆で流麗に〇〇分教会と墨書。いい。なかなかいい。女房も……ほめないなあ。「私が書きたかった」という。これは理の有る会長が書くんだよ。でもないか。出来映えは7月号の「かさおか」の表紙をチラッと見て下さい。決してじっと見ないで下さい。(ひ)

立教百八十年 五月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様	贄者	高木昭祥
扨者	岡崎真一 三島渉	指図方	赤木素志 上原繁道

講話	縦の伝道講習会	七月講話	人材育成講習会
----	---------	------	---------

区分	役割		地方
	おつとめてをどり	地	
坐り勤	大教会長様 上原明勇 上原繁道 大教会奥様 田中ますみ	吉岡壽 菅尾正治 高木昭祥	吉岡
前半	門脇元教 岡崎真一 山野弘実 武内正美 谷内美知子 門脇加津	中村剛 三島渉 上原繁次 門脇元教 岡崎真一 山野弘実 武内正美 谷内美知子 門脇加津	中村 三島 上原
後半	横山小智榮 浅野明教 上原志郎 田林久嗣 渡邊隆夫 佐藤真孝 虫明立生	田中隆之 中村道徳 内海史郎 上原明勇 中島誠治 上原浩 岡崎豊子 高木孝子 横山小智榮	田中 中村 内海
	菅原誠一郎 杉原博之 佐藤道孝 谷内伸自 田中隆之 中村義太郎 武内清明 佐藤香苗 内海安子 上原順子 今川佐智子	吉岡誠一郎 杉原博之 佐藤道孝 谷内伸自 田中隆之 中村義太郎 武内清明 佐藤香苗 内海安子 上原順子 今川佐智子	吉岡 杉原 佐藤 谷内 田中 中村 武内 佐藤 内海 上原 今川

昭和56年 (1981年) 立教144年

1 . 14 大教会承事・恵陽分教会二代会長藤本正樹出直 (八十八歳)
 1 . 20 大教会史編纂常任委員会 (この年、以後十九回開く)
 1 . 26 春季大祭に真柱様から論達第三号発布

論 達 第 三 号

教祖が、一れつ子供可愛い親心から、やしろの扉を開いて、世界ぐるぐらに踏み均しに知られ、御存命のお働きをもって、たすけ一条の道の先頭にお立ち下されてより、既に九十余年、来たる昭和六十一年一月には百年を数える。我々は、教祖百年祭を執行にあたり、その元一日を振り返り、親心を偲び、今後の決意を新たにしたい。

百年は十年を十度繰り返して過ごした年月の重さを物語る。百という字の意は、白紙に戻り一より始めるを謂う。

親神様は、人間を創造られる時、九十九年毎に三度の出直しを繰り返させて、生み且つ育てられた。人間は、五分から生まれ五分五分と成人し、生まれ更りを重ねて今日を迎えた。

教祖百年祭の意義は、立教の元一日をたすけね、ひながたをたどり、さらに、子供の成人を急ぎ込んで御身をかくされた元一日にかえり、親神様が人間世界を創造り給った元初まりの思召である陽気らしを實踐することにある。

天保九年十月、親神様は、「我は元の神・実の神である。」と啓示られ、教祖を神のやしろに貰い受け、初めて人間世界に現れ給った。以来、教祖は、世界一れつを救けたいとの親神様の思召のままに、神一条・救け一条の道を歩まれ、五十年の長きにわたって、やまさかやいばら

昭和55年 (1980年) 立教143年

奉告祭：昭和五十六年三月七日
 10 . 26 弥高山分教会附属建物改築
 10 立教百四十二年下半期布教実修会 (二月まで)
 11 . 15 大教会長長男・上原理一、きよ花結婚式
 11 . 23 少年会おとどめまなび絵画開催 (七〇〇人)
 11 . 16 府鮮分教会三代会長奥 忠郎任命 (二代会長奥 忠儀辞任)
 就任奉告祭：昭和五十六年一月十一日
 11 . 26 府鮮分教会建築模様替
 陶山分教会五代会長大平於石任命 (四代会長大平太郎 昭和五十五年六月十九日出直)
 11 . 26 就任奉告祭：十二月十四日
 12 . 15 真柱様、上下分教会に巡教
 12 . 26 三部分教会附属建物増改築

この年、一月二十八日御本部西礼拝場の棟上げおとどめがつとめられた。また二月二十五日には本部青年会四代会長に中山善司様を推戴した。三月二十七日にはおやさとやかた西左第五棟が竣工した。大教会では六月、第八十三母屋第二期工事が終わり北・南棟また会長宅が竣工した。こうしていよいよ教祖百年祭への歩み十年の半ばを終えた。

この年の大教会年間統計 初席者五百四十四人 おさげの理拝載者三百四十二人 修養科修了者百六十二人 教人登録者八十五人 教人総数二千九百一十一人 よろぼく総数七千三百五十六人。全教よろぼく総数八十一万八千三百九十五人。